

## DIVERSITY NEWS

2016.1.6

ワーク・ライフ・バランス(WLB)セミナー

## ライフスタイルの変化とワークライフバランス ーその時がもうすぐやってくるー

講師：畑山 博 医療法人財団足立病院長



将来の仕事と生活の調和を考える機会を提供することを目的に、11月5日、経済学部ワーク・ライフ・バランス(WLB)セミナーの特別企画として、医療法人財団足立病院 畑山 博院長の講義を本学の学部生、院生、教職員にも聴講対象を拡大して実施しました。

畑山氏は、はじめにワークライフバランスとは「ワーク 50%」、「ライフ 50%」と、二つが均等分されているものを指すものではないと説明され、人生は学生時代、結婚、出産、育児、病気や親族の介護、老後など、刻々と変化するもので、そのステージごとに仕事と生活のバランスの変化を柔軟に受け入れながら生活していく事が重要であると話されました。

そして、日本政府の動き、意識調査の結果、諸外国との比較などのデータを示して、日本で国策としてワークライフバランスが推進される理由は、加速する一方の少子高齢化を食い止めるために、少子化への対応が急務であるからだと言及されました。少子化のデフレスパイラルとして、少子化→消費、労働人口の減少→経済基盤の弱体化→税収確保が困難→社会保障制度が破たん→仕事、子どもの教育の質を求めて、若い世代が都市部に集中→地方自治の崩壊、を例示され、これらによってさらに少子化が進むのだとの説明がありました。

そこで、労働人口の確保のためにワークライフバランスを推進して、育児中の女性が働ける環境の整備、定年退職後の再雇用制度、イクメン・育ボスの定着、介護離職者を減らすといった種々の取組が行われていますが、これらの取組では、女性に特に負担がかかる構図があると指摘されました。女性には子どもを産んで欲しい、労働力として働いてほしい、さらには介護も担って欲しいという思いが、読み取れるからだと言及されました。

また、少子化の要因として「非婚」を提示され、結婚しない若者が急増しているのを、若者の結婚に対する意識を変え、婚姻数を増やせば少子化の解決につながるのではないかと指摘されました。そのために婚活事業に力を入れ、結婚しやすい環境を作ることが大切であることを強調され、一例として夫婦別姓なども検討事項であると話されました。そして、内閣府が来年度予算の概算要求に約2億円の少子化危機突破基金(仮称)を盛り込んでいることも紹介されました。

若者の意識調査より、男性は恋人にも結婚相手にも「優しい」「明るい」「顔が好み」であることを求めますが、女性は恋人には「優しい」を一番に、結婚相手には「経済力」を一番に求め、続いて、恋人、結婚相手ともに「金銭感覚が合う」ことを求めるという結果と、女性は年収と結婚率に連関が無いが、男性の場合は年収が300万円未満の場合、結婚率が大きく減少する調査結果を示され、男性は年収300万円が結婚の可能性での大きなボーダーラインとなっていることが指摘されました。

2014年の新成人男性の23%、女性の15%が恋愛経験無し、男性の53%、女性の40%が交際経験無し、さらに新成人全体の35%が「恋人はいらない」と答える現実に対し、畑山院長からは、政策としてワークライフバランスが推進されている一方で恋愛や結婚に消極的な若者が多いということに触れ、学生に向けて勉強も生活も何かを成し遂げるには、自分からの働きかけが必要であることを指摘されました。最後に「家庭を持って楽しい人生を送るためには、学生という身分である今、まずは恋愛にも積極的になろう」とのメッセージが送られました。

## キャリアデザインセミナー



12月17日、京都市男女共同参画推進協会によるキャリアデザインセミナー「ハタラクってどういうこと?!—シゴトはバランスが大切!—」を進路・就職支援センターと共催しました。

京都市男女共同参画推進協会 市原陽子氏の司会進行で、月桂冠株式会社近畿営業部アシスタントマネージャー 前田真樹氏、藤井大丸総務部主任 高木絵美子氏の二人の講師より、仕事と生活のバランスをとるための工夫をお話いただき、学生に今後のキャリアを考える機会を提供しました。

パネルディスカッションでは、講師のお二人が経験された所属異動について意見を交わし、考えを深めました。就職活動を間近に控えた学生からは、何かのきっかけで希望職種が変わったり、入社後の異動があることを知り、やりたいことをあきらめなくてもよい、やりがいはいどの部署でも見つけられる、自分のペースで働くことの重要性を知った、などの声が寄せられました。



## 平成27年度第2回 研究力向上セミナー

11月25日、12月2日の2日間、女性研究者のための英語スキルアップセミナーを実施し、参加者は学会発表や論文作成についてのレッスンを受けました。



12月11日、平成27年度第4回ダイバーシティ交流会を開催し、「リーダーをめざそう、させよう～女性もやればできる～」をテーマに、相馬芳枝先生よりご講演をいただきました。

講師には、リーダーとしてプロジェクトを牽引してこられた経験をもとにお話しをいただき、「待っていてはダメ」、「全員が小さな単位でリーダーをめざそう」と励ましの言葉をいただきました。

質疑応答では、研究でも職場環境でも行き詰まりを感じているという研究者に対して、相馬氏は、活路を広い視野で探すことを提案されました。そして、研究者ネットワークを拡げるには学会を活用するとよいと話され、まずは小さなことでも学会での用務を引き受け、経験を積み、いつか自分が学会を主催するための力をつけていこうと、ご教示いただきました。

## 平成27年度第4回ダイバーシティ交流会

